井上圀彦 校長 瑞宝小綬章受章

16年11月10日、井上圀彦校長（理事長兼務）が瑞宝小綬章を受章した。伝達式（会場 国立劇場大劇場）後は、宮中豊明殿にて天皇陛下に拝謁し、お言葉を賜わった。

井上校長は、大学院を卒業後、保育専門学校の講師を経て、千葉県公立小学校教諭として、習志野市の小学校で、4年～6年生のクラスを受け持った。才気煥発で、あらゆることに正直に反応する子どもたち。凧作りを教材にした図工の授業では、夢中となったクラスの子どもにせがまれ、次の授業も図工に変更したことも。完成した凧を野原であげた子どもたちのはしゃぎ様は、今も心に残るという。

音楽の授業で器楽演奏をした時も、いつの間にか本格的な練習に子どもたちがのめり込み、全国リコーダーコンクールでは何度も優勝を手にした。その出来事がきっかけとなり、音楽の道へと進んだ生徒が何人もいる。

井上校長の父は、教育学の専門家として千葉大などで教鞭を執った大学教授。母、祖母とも本校教員であり、本校創業家の思いを受け、昭和53年から本校に赴任した。受け継いできた女子教育発展という使命感と、多感な世代の成長を見守る教職の魅力が、校長職25年を支えた。そのかたわら千葉県私立中学校高等学校協会の役職や、私立学校全体の振興と発展にも尽力した。内外にわたる多年の功績により、09年には文部科学大臣表彰を受けている。

校長職にあっても、一教員として教科指導に加え、修学旅行やスキー教室の引率をする。生徒の顔ぶれは毎年変わる。ゆえに行程は同じであっても一つとして同じ旅はない。生徒と同じ場所に立ち、共に同じ風景を眺め、時間を共有することを大切にしているのは、小学校教諭の経験にある。共にいて、ささいな変化や成長を見逃さないでいたいとの思いがある。シンセサイザー部の創部も、クラスの子どもが夢中になった器楽演奏が原点だ。一人一人の個性に合わせて、役割を担い、合奏することで予想もしなかった音色が響き、心が躍る。一人ではなく、心が通い、息を合わせることで生まれるハーモニーは、人との関わる有り様にも重なる。

親近感あふれる柔和な人柄の中に、強い信念を秘めて歩んできた教員人生。その姿勢は、本校に様々な変革をもたらしてきた。一方で、女子教育の発展の理念を大切に、伝統を守り続けてきた。学校運営、あらゆる校務の責任者として育務を果たしつつ、現場主義を貫く。シンセ部員の特長を生かせるパート譜を作り、音楽室で演奏を指導する。形になってゆく合奏にさらに進化させようと指揮棒を振るシンセ部での活動が、何よりの至福の時、珠玉の景色である。

菅谷隆男 教頭 千葉県知事より感謝状

16年12月3日、第47回千葉県私学教育功労者表彰式典（会場 アパホテル&リゾート東京ベイ幕張）で行われ、菅谷隆男教頭に、千葉県知事より感謝状が贈られた。長年の私学教育功労者の実績によるものであり、平成17年に私学功労表彰を受けている。

菅谷教頭は、昭和59年度より本校に勤務。学年主任、生徒指導部長を歴任し、平成21年度から教頭職に就くとともに、生徒指導部長も兼務している。教科指導に力を入れ、医療系、理系進学を目指す生徒に対して対策授業を開講し、朝7時30分から教壇に立つ。理数科にとどまらず、国、英など文系授業も教える力量で、数多くの生徒の受験を手助けした。

担当する理科の授業では実験を多く取り入れ、目で見てる工夫を大切にしている。は食材を実験に使い、そのみんなで頂いたりもする。ため、理科室からは、時にしく、時に焦げ臭いにおいり香となって、廊下に広がとも。理科の楽しさを伝えるという思いがある。

理数系が好きになったきっかけは、数学が得意な兄の影響だ。勤勉な兄に対して、家業を継いでほしかった親は、夜、勉強している兄の部屋に入ってきて照明を消してしまうことも。親の思いとは裏腹に大学を機に、兄が上京。それにされ、同じ道を歩み、進学した。兄は、東京で就職。現在は、大学の特任教授として都内に通勤している。そのため、菅谷教頭当初、神奈川県で教員生活っていたが、親元に近い本異動し、現在に至っている。

教員生活が終わったら、一手になった今、様々な経験ぶ人になりたいとの夢もある。本校にとって唯一無二の大黒柱。トラックの代わりに、本校の公用車ハイエースで、東奔西走する日々がまだまだ続く。

ようこそ先輩 夢授業

16年6月27日、5名の卒業生を講師に迎え、体育館にて全校生徒、職員が社会人となった卒業生の職業講話を聞いた。

招かれた卒業生は、居森雅恵（平成23年度卒）さん、香取優子（平成23年度卒）さん、土方絵里香（平成23年度卒）さん、豊村綾子（平成17年度卒）さん、岩立敬子（平成元年度卒）さん。保育士、歯科衛生士、看護師、大学職員、ドッグトレーナーというそれぞれ仕事の大変さと、やりがいについて熱く語ると同時に高校生時代を振り返り、在校生にエールを送った。ドッグトレーナーの岩立さんは、ゴールデンレトリバーのアトム号と共に来校。実際の訓練模様を実演し、会場を湧かせた。講話後は、生徒から集められた質問に応じてくれた卒業生。希望者の多い保育士や医療分野の職業について特に関心が高く、質問も多かった。

卒業生講話に感動したのは職員も同様。久しぶりの再会と、それぞれの人生をたくましく歩いている成長した姿を見て、うれしさとなつかしさが交錯した時間だった。

犬のしつけを実演する岩立さん（左）と宮内先生の愛犬アトム号

左から 豊村さん・土方さん・香取さん・居森さん

第一コンピューター室 新パソコン設置

静電気によって水の流れが曲がることを見せる実験

16年8月、本校の第1コンピューター室のパソコン計32台が新しい機種に一新された。新機種導入は2008年の8月以来。それに伴い、OSもVISTAからWindows10へと変わり、使用されるソフトもバージョンアップした。旧機種と異なり明るく鮮やかなモニター画面と、スムーズな処理能力の速さに、使い心地や良さを実感できる。

パソコンの変更とともに、セキュリティ強化のため、校内のネットワークシステムも移行したため、担当の中村先生が、その切り替え作業にも尽力。その甲斐あって、9月からの授業でリニューアルした第一パソコン室には、様々な授業に活用されている。ソフトのバージョンアップのお陰で戸惑うこともしばしば。パソコン授業担当の先生方も、新たな操作、機能について日々研修しながら授業に臨んでいる。

日進月歩のパソコン進化に対応すべく、学校教育も変化を期待されている。小学校では、2020年度からプログラミング体験も盛りこまれる。同時に、デジタル教科書導入の方針も明らかにされている。様々な面で、ICT環境は、大きく転換してゆくことになるだろう。

春のスポーツ大会

＊バスケットボール
優勝 3年Aチーム
準優勝 2年Bチーム

＊ドッジボール
優勝 3年Aチーム
準優勝 1年Bチーム

＊バレーボール
優勝 3年Aチーム
準優勝 1年Aチーム

秋のスポーツ大会

総合優勝 3学年
準優勝 2学年

平成29年度 生徒会役員

前列左から 宮野・畔蒜・多田・宇佐美さん
後列左から 柏木・飯島・渡邉さん

会長 2B 畔蒜 友理恵（栗源中学校出身）
副会長 2A 多田 莉乃（香取中学校出身）
副会長 1B 飯島 愛未（旭第二中学校出身）
書記 2B 宮野 あかり（大栄中学校出身）
書記 1B 柏木 明日香（江戸崎中学校出身）
会計 2A 宇佐美 桃香（東庄中学校出身）
会計 1A 渡邉 瑠依（東庄中学校出身）

3位 1学年
＊学年対抗リレー
優勝 3学年
準優勝 1学年
3位 2学年

＊クラス対抗リレー
優勝 3年A組
準優勝 1年B組
3位 2年A組

＊部対抗リレー
運動部優勝 バドミントン部
文化部優勝 ファッション部

水仙花

（題字 井上みさを圀校長）
香取市佐原イ3371（〒287-0003）
千葉県佐原高等学校
新聞委員会発行
主幹 羽山千晶
委員長 松本悠花（3B）
副委員長 ヒトミ田中（3B）

NHKファミリーヒストリー 北野武スペシャルの回で撮影協力

著名人の家族の歴史を徹底取材し、そのルーツをひもとくNHKの番組「ファミリーヒストリー」。16年12月21日に放送されたスペシャル版は、北野武のルーツだった。73分の拡大版の番組製作に、本校の職員と生徒が協力した。

北野武の母さきは、奉公先で覚えた裁縫の腕を生かし、東京で帽子屋を開く。

時は大正時代。洋装が進み男性の9割が帽子をかぶり、女性も「モダンガール」と呼ばれた洋装が流行していた。さきの帽子・洋品店が繁盛し、さきが懸命に働いたシーンを佐原の商店街の一角に、帽子屋のセットを設け、撮影することになった。

足踏みミシンを操り、裁縫をするシーンを撮影するにあたり、足踏みミシンができる若い女性を探しているという佐原の観光協会から依頼を受け、家庭科担当の宮内輝美先生の指導の下、伊豫田星子(3A)さんが、撮影に参加した。足踏みミシンをリズミカルに踏み、帽子を縫うシーン。伊豫田さんの作業する手先だけが映り、あとは、さき役の俳優さんのミシン作業姿が次に映る。

伊豫田さんは、撮影日の9月28日に備えて以前より足踏みミシンを練習した。学校には、足踏みミシンがなかったが、藤ヶ崎登史江先生が所有していた貴重な足踏みミシンを借りることで、ひそかに練習ができた。そのため、伊豫田さんの撮影は順調に進み、帽子飾りのリボンをつける手縫いのシーンも新たに増えた。

そして、さき役の俳優さんが大きく映る裁縫シーンでは、足踏みミシン初挑戦の俳優さんに、宮内先生が使い方、裁縫を指導し、無事に帽子を製作してゆくシーンは撮影終了。「初めてなのに、とっても上手にできていましたよ。」とねぎらい、宮内先生が声をかけると、俳優さんも「ありがとうございました。」と喜び、安堵の表情。撮影スタッフの皆さんからも、裁縫の心得がある宮内先生の助けに感謝の声。わずかな出番であったが、待ち時間も合わせて、所要時間は約5時間。番組製作の労力の大きさを思う。

このシーンは、武の母さきの人生で、実は大きいものであった。さきは、早くに親・兄弟と死別。14歳で奉公するも、無学のため、下働きしかさせてもらえず、一人苦労を重ねた。裁縫や料理ができるようになれば、出世する序列の世界。さきは、3時のおやつが出ると、食べずにそのおやつを包んで、女（じょちゅう）がしらに渡して、裁縫を習ったという。苦労して得た技能が、帽子店での経営につながったのだ。その為、もたちに勉強の大切さを、も伝え、大学進学の学費を貯めることに人生をかけた。その甲斐あって3人の子どもは全員、大学に進学。しかし、武が大学を中退したことで、母は激怒。疎遠になった時もあったが、能界で活躍する武を陰で応援し続けた。武のブレイクのきっけとなった「タケちゃんマン」人形を秘かに大切に持ってという母の遺品が番組の最後に紹介され、北野武は仰天。分はよくぞ、北野さきの息子生まれた。」と、感嘆していた。

撮影にのぞむ伊豫田さん

さき役の俳優に裁縫を指導する宮内先生

学園祭 それいゆ祭 テーマ「百花繚乱」 「創立115周年記念式典」

本校の最大行事である学園祭（それいゆ祭）が、16年11月22日（生徒の日）、23日（一般公開の日）の2日間、行われた。

生徒・職員が、連日遅くまで準備し、各学年、部が総力を結集して作品を作り上げた。教科の展示、各部活動の発表のもある学園祭の発表の主旨にふさわしく、授業や動の日頃の成果を形にしてすることを大切にしている。自分たちで楽しむだけでなく、お客様をもてなし、創意工夫を凝らした作品展、模擬店、公演を堪能してもらおうと、諸活動を披露するのが、本校学園祭の大きな特色である。

11月23日、学園祭に先立ち創立115周年記念式典が行われた。長い歴史の中で一万人を超える卒業生を輩出してきた。「教育の根本は女子教育にあり」と唱えた初代文部大臣・森有礼の言葉と、創立者井上はなの思いを式辞として表した井上圀彦校長。式典と学園祭を取材した千葉日報社によって、16年11月24日の千葉日報の記事に、その様子が紹介された。

式典後に始まった学園祭2日目（一般公開日）には、保護者・同窓生・近隣の方をはじめ、中学生も多く訪れ、賑わいを見せた。また、学園祭恒例の巨大壁画が校舎の外に飾られ、来場者を出迎えた。

学園祭を企画・運営した生徒会役員。なかでも実行委員長を務めた鹿野奈那子(3A)さんと生徒会役員は、オープニングとしての生徒会主演VTRを製作し、ダンスパフォーマンスを加えて、個性の光る企画で学園祭を盛り上げた。学園祭の感想について鹿野さんは、「学園祭を成功させることができるのか、不安な時期もありましたが、多くの人に支えられて役目を果たすことができました。」と振り返り、「学園祭は私の一生の宝物です。」と語ってくれた。

生徒会本部役員と学園祭実行委員

平成28年度 学園祭賞

○ファッション造形（洋裁）の部
3A 伊豫田 星子

○ファッション造形（和裁）の部
3A 七里 綾花

○ファッションデザインの部
3A 宮澤 亨佳

それいゆ祭来校者数 445名

来場者でにぎわうお菓子とパン作り部の模擬店

各クラスの学園祭実行委員の皆さん、そして生徒会長の鹿野さん、副会長の神崎ももこ(3A)さん、畔蒜友理恵(2B)さん、書記の伊東なつみ(3B)さん、宮野あかり(2B)さん、会計の菅井伊織(3A)さん、宇佐美桃香(2A)さんの尽力に感謝。そして、生徒会本部役員の一年間の活動をねぎらい、その貢献に重ねて拍手を送りたい。

※巨大壁画は、17年2月11日開催された陸援隊広報パレード（会場：香取市佐原文化会館）でも披露された。さらに、17年3月26日には、「地球ステージ大切な『いのち』みつめる講演会」（多古町コミュニティプラザ文化ホール）にも掲示される。

華学園主催 高校生デザイン画コンクール入選

宮澤亨佳(3A)

作品名「自然」

佐原商税会税の標語入選者 全国間税会総連合会入選作品

納税で ふやせる笑顔 明るい未来
本宮 優花(1B)

消費税 納めて明るい 日本の未来
富岡 茉希(1B)

考えて 納めた税の 使い道
仲沢 美嘉(1A)

伊藤園 おーいお茶新俳句大賞

北風で締めばいいのに2人の距離
石内 日奈子(2B)

今回の応募作品計 1,862,954句

お～いお茶新俳句大賞

（佳作）

クラブ通信

バドミントン部

◎平成28年度関東高校バドミントン大会第4地区予選会

16年12月17日、シンセサイザーオーケストラ部の定期演奏会が、香取市佐原文化会館で行われた。26回目を数える定演。直前には、地域情報誌「エリート情報」の取材を受け、12月10日の記事に、その活動が紹介された。

クラシックからポップス、民謡、演歌、ジャズなど多彩なジャンルを演奏できるのは、キーボードで構成されるオーケストラ部ゆえだ。さらに、顧問の井上図彦校長が、編曲し、生徒の個性に合わせてパート譜面を手掛け、役割を配分しているから、演奏作りの楽しいところでもある。年間50曲にのぼる楽譜を練習し、その中から、完成度の高い曲を厳選している。このように、曲数を多くこなせるのもシンセ部ならではの。そのため選曲も特定のジャンルに偏ることなく、新旧の曲をとり混ぜ、幅広い世代に親しまれる演奏を毎年披露している。

二部構成で「ピチカート・ポルカ」やミュージカル「エヴィータ」より「アルゼンチンよ泣かないで」など計21曲を演奏。演奏にのせて3年生部員2名によるコーラスもあり、美しいハーモニーとなって会場を包んだ。

3年生部員は、この定演こそが引退の花道。歓喜の涙は、部活動への愛着と、思い出のつまった日々の回想によるもの。次世代の部員にもその熱き思いは伝わり、受け継がれてゆくことだろう。

第26回 シンセサイザー部 定期演奏会

◎女子団体
一回戦…千葉萌陽2―1多古
二回戦…千葉萌陽0―2匝瑳
敗者戦一回戦…千葉萌陽2―1佐原
県大会決定戦…千葉萌陽1―2小見川

◎平成28年度東総地区バドミントン学年別大会
三回戦…横尾0―2向後（匝瑳）

◎平成28年度東総地区バドミントン選抜大会
○女子団体
一回戦…千葉萌陽0―2匝瑳
二回戦…千葉萌陽0―2匝瑳
敗者戦一回戦…千葉萌陽2―1佐原
県大会決定戦…千葉萌陽1―2小見川
準決勝…千葉萌陽0―3県立銚子

○女子ダブルス
準々決勝
横尾　1―2　（日色（匝瑳）石上）
ベスト8

○女子シングルス
横尾　1―2　掛栄（銚子南）
ベスト8

◎平成28年新人バドミントン大会第4地区予選会
○女子団体
一回戦…千葉萌陽0―3匝瑳

○女子ダブルス
準々決勝
横尾　1―2　（小林（市立銚子）石上）
ベスト8

○女子シングルス
横尾1―2日色（匝瑳）
ベスト8

○学校対抗
予選…3位
決勝（順位決定）リーグへ
千葉萌陽1―3佐原白楊

○個人（ダブルス）
1回戦…大貫・杉浦組
大川・多田組

○個人（シングルス）
2回戦…杉浦・大貫・大川
3回戦…多田

◎千葉県私立高校卓球大会
8／17・18　東金アリーナ

○学校対抗
（※二松学舎柏・横芝敬愛と3校合同チームで参加）
2回戦
合同T0―3千葉商大付

○個人（シングルス）
2回戦…平塚・多田

◎新人卓球大会
千葉県第4地区予選会
9／16・17　旭市総合体育館

卓球部

◎関東・総体卓球大会
千葉県第4地区予選会
4／15・16　旭市総合体育館

○学校対抗
予選…3位
決勝（順位決定）リーグへ
千葉萌陽1―3佐原白楊

○個人（ダブルス）
1回戦…大貫・杉浦組
大川・多田組

○個人（シングルス）
2回戦…杉浦・大貫・大川
3回戦…多田

◎千葉県私立高校卓球大会
8／17・18　東金アリーナ

○学校対抗
（※二松学舎柏・横芝敬愛と3校合同チームで参加）
2回戦
合同T0―3千葉商大付

○個人（シングルス）
2回戦…平塚・多田

◎新人卓球大会
千葉県第4地区予選会
9／16・17　旭市総合体育館

○学校対抗
※人数不足により不参加

○個人（ダブルス）
1回戦…多田・平塚組

○個人（シングルス）
1回戦…多田・平塚

◎秋季市民卓球大会
9／25　香取市民体育館

○団体
2回戦…敗退
千葉萌陽0対3小見川

○個人（シングルス）
1回戦…大貫
2回戦…平塚・多田
3回戦…大川

ダンス部

4／14…オリエンテーション公演
5／28…保護者会総会ダンス発表
7／23…市民音楽会ダンス発表
8／23…ファンキーフレッシュファクトリーダンスコンテスト
11／6…市民音楽会ダンス発表
11／22・23…それいゆ祭公演
12／18…香取小江戸マラソン給水ボランティア

市民音楽会公演「Target」

ボランティア部

8／10…健康サポートうらら公演
10／12…香取市障害者スポーツ大会ボランティア
10／20…高齢者クラブ運動会ボランティア
10／22…ふれあいスポーツ大会ボランティア
11／23…東北物産展・模擬店
※売上と募金16,413円を日本赤十字社を通じて東日本大震災復興支援に寄付。ユニセフ募金1,853円。
12／18…香取小江戸マラソン給水ボランティア
2／21…香取市福祉大会にて活動発表「テンダーハートをめざして」
エコキャップ回収
11,610個
（ポリオワクチン13人分）

書道部

平成29年1月29日…第69回千葉県小中高校書き初め展席書大会参加
多田　莉乃（2A）
総合スポーツセンター体育館

書き初め展席書大会

イラスト部

平成23年度より始めた「千葉萌陽高校イラスト展」は、今回で6回目となり、12月18～24日、香取市中央公民館1階ホールで開催しました。

このイラスト展は一年間のまとめとして行うもので、校内イラスト展・東総合同マンガ展・28年部誌原稿・学園祭作品・今回のイラスト展の作品など400点余の作品を展示したものです。更に過去の部誌や合同作品・学園祭で作ったラミカ等も展示しました。そして観覧者にはラミカやしおりなどをプレゼント

顧問の菅谷先生のもと、イラスト展は6回目を数える。

茶道部

茶道部は年間を通して様々な行事に参加させて頂きました。学校行事ではオリエンテーション、それいゆ祭、地域のお茶会でもお点前を披露し沢山のお客様にお茶をさしあげる事が出来ました。地域での茶会を紹介します。

6／11・12…水郷佐原観光協会主催（水生植物園あやめ野点の会）
6／18・19…佐原おかみさん会主催（小野川沿い野点の会）
11／5…佐原文化芸術祭（町並み茶会）

茶道部の活動日は週2回と多い方ではありません。ですが、2回とも充実した内容になっており、学ぶ事が沢山あります。特にそれいゆ祭は三年間の集大成でした。今年は例年より茶室で飲みたいという方が多く、お点前を見て頂ける機会が沢山ありました。1年生や2年生も接客が板に付いてきて、お客様からお褒めの言葉を頂きました。

2016年という年は、部員達にとって濃密かつ充実した一年になったと思います。

羽生　綾音（3A）

町並み茶会　いなえにて

書道部

顧問　菅谷　隆男

見に来ていただいた方の感想は、一様に「良く書けているね。」「本当にうまいね。」などと感動を実感する言葉でいっぱいでした。

ただ、残念なことはポスターの作成が遅れたので、宣伝不足で、小・中学生の見学者が少なかったことです。今回のイラスト展の反省を踏まえて次回もすばらしい展示が出来るよう部員全員で頑張って行きたいと思います。

アカスタン・シリア難民への衣類支援報告

ジャケット(71)・上着類(57)・スウェット(20)・ブランケット(15)・シャツ(143)・靴下(77)・腹巻(3)・マフラー(54)・手袋(10)・ジャンパー(74)・パーカー(15)・トレーナー(19)・フリース(18)・コート(23)・セーター(144)・帽子(17)

合計760枚

※各種検定合格者別紙記載

オーストラリア語学研修

オーストラリア語学研修（2年に1度実施）が、2016年8月20日～27日の日程で行われ、希望者5名が、オーストラリア・ケアンズ市にて、ホームステイを体験した。

参加者は、鈴木あや(2A)さん、吉川あすか(2A)さん、岡野杏花(1A)さん、飯島愛未(1B)さん、稲吉万凪夏(1B)さん。少人数ゆえに一人一人も伸び伸びと行動できる自由な雰囲気で、リラックスできるツアーとなった。

成田発ジェットスター航空で一路ケアンズへ。約7時間半のフライトは夜行便であったため、寝不足気味。入国審査は、端末にパスポートをスキャンするなど、オートメーション化が進んでいた。到着ロビーに降り立った時、未明の空に有明の星がまたたいていた。早朝にもかかわらず、ホストファミリーの皆さんは、すでに空港で対面を待ち望んでくれている。生徒にとって、眠気も一気に吹き飛ぶ緊張の瞬間だ。

「Nice to meet you」

満面の笑みでの自己紹介で、まずは、第一段階クリア！到着初日は、ホストファミリー宅に迎えられた後、買い物やビーチに出かけるなど、それぞれの休日を過ごした。

8月22日～25日までは、午前中は、語学学校にて英会話レッスンを受ける。本校の生徒5名だけの限定クラスを担当したのは、シドニー出身のポール先生。韓国でも英語を教えた経験があり、今も複数の大学・語学学校で英語を教えている。英語教師養成講座（TESOL）を習得しているポール先生の授業は、とにかくアクティブ。英語だけの授業に、さぞ、生徒は凍りついているかと思いきや、爆笑の声と、元気な英単語の一斉発声が何度もこだましている。予想外!?の盛り上がりに、恐る恐る窓をのぞき込むと…。まるで、魔法にかかったように生徒は、英語に素早く反応し、興奮が教室中に広がっている。読む・書く・聞く・話す作業の連続に、集中がとぎれることなく、またたく間にレッスン終了。興奮と好奇心の渦――。

ポール先生の英会話レッスン
ケアンズ カレッジ オブ イングリッシュスクールにて

市内観光を楽しみながらの英会話レッスン

毎日、ホストファミリーが用意してくれたお弁当が、ランチタイムの楽しみ。サンドイッチ、お菓子、缶詰、果物など。お菓子やジュースの味も、日本と違う味覚のものもあり、食べるごとも。しかし、お陰で、退屈する暇もない。ホームシック気味でも、日本の家族にあてたエアメールには「元気で楽しんでいます。」と、元気な文面を書くそれぞれの横顔は、たくましく見えた。

午後のアクティビティでは、ポール先生が、観光案内をしてくれる。いわば屋外英会話教室。いつでも、英語×観光を楽しむことができる。見るもの、聞くものすべてが新鮮。買い物一つでも、英会話の実践ができるので、日常生活そのものが冒険になる。これぞ海外生活でしか味わえない体験だ。

授業の最後にバーベキューパーティーを楽しみ、修了証の贈呈式ではポール先生は、生徒一人一人と丁寧に言葉を交わし、握手をしてくれた。

最終日、一行は、ケアンズ郊外のキュランダ渓谷への一日観光に出かけた。キュランダに広がる熱帯雨林は、世界自然遺産に登録されており、行きは列車、帰りはロープウェーからその雄大な雨林帯を眺めることができる。車内でもポール先生を囲んで、笑いが絶えない。ポール先生に日本語を教えたり、ホストファミリーへの手紙を添削してもらったり。ポール先生は、とにかく明るく、親切。ジョークを言っては、みんなを和ませるチャーミングな人柄で終始、生徒たちから慕われた。

それだけに、ポール先生との別れは、つらい。しかし陽気なポール先生をさらに喜ばせようと、みんなで、つたないながらも英語で感謝を伝え、家庭科担当の宮内先生お手製、和柄の小物を渡すと、破顔一笑。心温まるひとときであった。

オーストラリアでは、「幸運の蝶」と呼ばれる蝶がいる。ユリシス――。和名はオオルリアゲハ。虹青色で、宝石のように強烈な光であでやかに舞うその姿から、幸運の象徴とされる。

キュランダ鉄道キュランダ駅にて

一度見ると幸せ、二度見ると お金持ち、肩など体にとまると、さらに幸運になるとの言い伝えがある。私たちは、キュランダの駅舎近くで、目の前を横切って舞うユリシスを見た。それと認めた瞬間に、もう飛び去ってしまうのだ。ユリシスを見て、幸福の蝶ユリシスを、偶然見つけ、見とれる瞬間とまさに同じ感覚であった。ユリシスを見上げながら、私たちはすでに満ち足りていたのだ。ユリシスを見て、幸福感にひたったのではなく、満たされた心境が、ユリシスを招き、ユリシスがすぐそばに舞い飛んだのだ。オーストラリアの研修では、英語力、ホストファミリーとの思い出、そして「自分を見つめ直す」副産物を土産に、元気に帰国。オーストラリアの自然と人のパワーは、やはり計り知れない。

1年A組　岡野杏花
父…Nimmoさん
母…Normaさん

一週間という短い期間で語学研修に参加して、いろいろな体験をしました。優しいホストファミリーと出会い、一緒に買い物したり、会話したりと、とても楽しかったです。スクールでは、ポール先生というオーストラリア出身の先生が一週間私たちのクラスを担当してくれました。とても明るくて面白い先生で授業がとても楽しく、ゲームやクイズ感覚で英語や動物、歴史を学ぶことができました。でも、英語を英語で学ぶことが新鮮に感じましたが、それと同時に難しさも感じました。とても良い経験ができたので、今後の生活や将来に活かされればと思います。

1年B組　飯島愛未
母…Xenyさん

一週間の短い間でしたが、たくさんの思い出を作り、学ぶことができました。ホストマザーのXenyは、私が分かるようにゆっくり話をしてくれて優しくおもしろい方で、すごく楽しかったです。

基本的に、日中はみんなと授業を受けたり、観光をしました。授業では、先生のポールガオーストラリアについておもしろく教えてくれました。観光は、動物園や先住民族のアボリジニと交流したり、キュランダにも行きました。出発前は不安でいっぱいでしたが、貴重な体験をすることができました。もっと英語を勉強し、またケアンズに来たいです！

1年B組　稲吉　万凪夏
父…Antonyさん
母…Monicaさん
姉…Samanthaさん
姉…Victoriaさん

私がホームステイした家族は、ジョークが大好きでとてもおもしろい家族でした。

学校では、Paul先生が毎日授業を楽しくしてくださり笑っていない時間はないくらいでした。観光のときには、わかりやすく私たちに教えてくださり、もっとオーストラリアのことを知りたいと思いました。また、私達が買い物をしたくてお店によるとPaul先生は、いつも立ち止まってくれて、とっても優しい先生でした。

私は語学研修に行って人との交流の仕方や海外のマナーなど社会でたくさん使えることを学ぶことができ、とてもよかったです。

2年A組　鈴木あや
父…Xinさん
母…Victoriaさん
弟…Kaiさん

一週間という短い期間でしたが、語学研修に行きたくさんのこと学ぶことが出来ました。ホストファミリーも、とても優しい方で毎日が本当に楽しく帰るのが少し悲しかったです。ホストマザーが作ったごはんはあまりに豪華でおいしく、今でもその味は忘れられません。一緒に語学研修に行った仲間とも、より一層絆が深まったと思います。そして、一週間家族の下を離れて過ごしていたので、家族の大切さにも気づくことが出来ました。

2年A組　吉川　あすか
父…Frankさん
母…Patriciaさん

私は、まったく英語が話せないので、最初は不安しかありませんでした。でもホストファミリーやポール先生と出会って生活をしていく上で、たくさんの会話力が身につけられました。一週間という短い期間ではありましたが、貴重な経験をすることができました。オーストラリアで学んだ事を、日々の生活に生かせるよう頑張って行きたいと思います。